

## 新型コロナウイルス感染症に関する国（岸田内閣総理大臣）と全国知事会との意見交換会 結果概要

※各都道府県に周知済

1 日時：令和4年2月1日（火） 16時15分～16時32分

2 出席者：岸田内閣総理大臣

平井鳥取県知事、内堀福島県知事、黒岩神奈川県知事、西脇京都府知事、  
濱田高知県知事、杉本福井県知事

3 内容（冒頭部分のみ）

### 【平井鳥取県知事】

本日は、岸田総理におかれましては、国会中大変お忙しい中、このようなお時間をいただきまして本当にありがとうございました。

また先だっては、34の都道府県に跨るまん延防止、率直に早く決めていただきましたことを感謝申し上げます。またこれからもそうしたケースがあろうかと思ひますし、柔軟に弾力的に対応していただき、例えば持ち回り方式だとか、国会の簡略化なども含めまして、ぜひ速やかな対処をしていただきたい。そのぐらい今、感染が広がっております。今日も群馬県や岡山県、大分県など、過去最多を記録するところが続々と今、出てきているところでございます。決して予断を許さない、オミクロン株、これに対する対策をぜひ、国として提示をしていただき、我々も一致団結してやっていくことをまずお誓いを申し上げます。

濃厚接触者の待機期間、これを短縮しよう、あるいは、ワクチンの前倒し接種、さらにはこのたび、ファイザー社の経口薬200万個、これを用意していただいたという報道がありました。大変にありがとうございます。政府のそうした岸田総理のリーダーシップに、我々としても感謝を申し上げるところであります。

今のオミクロン株は、非常に移り方が早い、感染の広がり方が早いということがあります。しかも子どもたちの間で広がる。ですから、学校だとか、あるいは保育園、あるいはいろんな行事、それがさらには、現在は高齢者施設まで感染が広がっています。こういうオミクロン株の現在の特性に応じた対策をぜひ、例えば分科会を開催するとかしていただきながら、早急にまとめていただきまして、我々の方にも提示をしていただければ大変ありがたいと思ひます。

また、ワクチンの追加接種、これは総理がいま旗を振っておられまして我々も一緒に進めさせていただきたいと思ひます。2月いっぱいまで97%というそういう数字をですね、いま全国で集計されつつあるわけですが、問題は我々場所を開いてみますと、実際予約がなかなか埋まらないということがあります。だからやっぱりPRのことが大切なのかなと思ひます。それからまたスケジュール、これを早く示していただきまして、段取りをもっと加速することができるように、政府と一緒にになりまして、市町村にも呼びかけて進めて参りたいと思ひます。総理がモデルナを打とうというふうにおっしゃったことも、我々も後に続いて、自らモデルナを打つなどして、PRと一緒にさせていただきたいというふうに思ひます。

さらに、総理がおっしゃるベッドの確保、これからまだせり上がってくるかもしれません。また酸素ステーション、こういうこともあろうかと思ひます。どうしてもこういうような状況があればですね、我々として、やはり在宅医療のことを重視しなければなりません。その在宅ケアなども、総理がおっしゃる重層的なネットワーク、あるいはICTを生かしたもの、こういうことを通じまして展開しようと、皆それぞれの地域の工夫を進めているところであります。

まだまだ厳しい時が続くと思ひますけれども、例えばPCRの検査試薬、あるいは簡易な抗原定性検査キット、こういうものの不足も現場では言われておられて、そうした声をまた丁寧に拾っていただ

き、対策を速やかにとつていただきたいと思います。今日は知事会として、この後、ご意見も申し上げますけれども、ぜひ、国と一体となりまして、このオミクロン株を乗り越えて参りたいと思いますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

### 【岸田内閣総理大臣】

まず、前回に引き続きまして、こうした機会を持っていただきましたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

各地で感染拡大が続く中、34の都道府県にまん延防止等重点措置が発出され、各知事のリーダーシップのもとで、医療体制の強化、そしてメリハリのきいた感染防止策に取り組んでいただいております。一部の自治体では、感染拡大のスピードが明らかに落ちている、こういった状況も見られるようになってきました。他方、専門家の方々からも、今後高齢者に感染が拡大すると、重症者が遅れて発生し、病床の逼迫を招く恐れがあるとの話、こうしたことも伺っております。決して楽観視をすることなく、各知事の皆様方のご協力をいただきながら、ワクチンの3回目の接種の加速や、さらなる医療体制の強化に取り組んでいく必要があると考えております。

そして今日、こうした機会をいただきましたので、私からは3点申し上げたいと思っております。まず第1に、ワクチンの接種についてです。現時点で、先ほど平井知事さんからもご紹介いただきましたが、全国97%の自治体が2月末までに対象となる希望する高齢者等への接種を完了する見込みとなりました。迅速な体制整備に感謝を申し上げる次第ですが、今後は、配布させていただいた毎月のワクチンを100%利用して実際に接種が進むよう、さらなるペースアップが必要であると考えております。昨日、一般の方々についても予約枠に空きがあれば、6ヶ月の間隔でできるだけ多く、さらに前倒して接種を行っていただくよう改めてお願ひをさせていただきました。管内の市町村に接種券の早期発行などを改めて要請いただくとともに、各都道府県においても、大規模接種会場の設置など、市町村の取り組みを後押ししていただきますようお願ひを申し上げます。そして国としても、自衛隊による大規模接種会場における接種の推進や交差接種の安全性・有効性に関する広報など、自治体の取り組みを後押しして参りたいと思っております。

そして第2は、臨時の医療施設、酸素ステーションの整備についてです。計画された箇所の開設までに一定の期間を要するという事を踏まえ、看護師等必要な医療人材の確保を含め、準備に着手するよう既にお願ひをさせていただきました。各都道府県の直近の感染状況を踏まえ、先手先手で増設に取り組んでいただきますよう改めてお願ひをいたします。国としても、看護師等の派遣補助単価の引き上げなど、医療人材の確保に向けた支援を強化して参ります。

そして第3に、軽症で自宅療養されている方々への対応です。自宅療養者が急増する中で、自治体、保健所の対応能力も考慮して、積極的疫学調査の重点化やITを活用した健康観察など、業務の合理化を進めてきたところです。自宅でも不安なく療養いただくためには、万一症状が悪化してもすぐに相談し、必要な医療を受けられることが重要です。地域の医療機関との連携のもと、即応体制のさらなる強化に取り組んでいただきますようお願ひをいたします。

本日は、多岐に渡る緊急提言を頂戴いたしました。手元にこの厚い冊子を頂いております。特に、これまでのデルタ株の時と違って、学校、保育所、家庭等で感染が広がっている実態、あるいは高齢者施設等におけるクラスターの経験等の話を踏まえ、オミクロン株の特性を踏まえた感染対策へと、さらに改善を検討していきたいと考えております。

今後とも、現場で対策に当たっておられる各知事の皆様方と緊密に連携を図りながら、強い警戒感を持って、対応に当たっていきたく思っておりますので、どうぞよろしくお願ひを申し上げます。どうもありがとうございます。